３　研修生のページ

研修を終えるにあたって

育成調教技術者養成研修　第 25 期生

昨年４月に開講した BTC 育成調教技術者養成研修の第２５期生１１名がこの４月に無事研修を終えて新たな世界へ巣立っていきます。そこで、研修期間中に経験したり遭遇した様々なことについて研修生の声として取り上げさせていただきました。これまでに得た育成調教技術や知識が、新たな船出に向けて大いに役立つことを願っています。

卒業に向けて

伊東　哲也

私達が昨年４月より研修を開始してから間もなく１年が経過し、卒業を迎えようとしています。４月の開講時には１６名だった研修生も、様々な理由により５名が辞めてしまい、現在は１１名が卒業およびその後の牧場での生活に向かって訓練に励んでいます。

入講前まで馬に携わった経験のない私にとっては、この１年の出来事全てが初めてのことばかりで印象に残っていますが、特に１つ挙げるとすると、８月に２週間の住み込みで行われた民間牧場での実習です。

私がお世話になったのは新冠町のノースヒルズマネジメントさんでした。毎日２鞍から３鞍騎乗させて頂いて、研修所では経験できない現役馬のスピード調教や、デビュー前の２歳馬の調教をさせて頂きました。その２歳馬が先日新馬勝ちをし、この仕事のやりがいを少し味わえたような気がします。また、実習では辛いことも味わえました。それは現役馬に騎乗した際に暴走されてしまい、走路を何周も走ってしまった時はただ馬にしがみついていることしか出来ず、情けない想いをしました。更に馬を曳いている最中に足を踏まれ骨折をしてしまい、実習期間を５日残して研修所に戻り、実家に帰省して療養することになってしまいました。私が研修所に戻る時に牧場の方々が「早く怪我を治して頑張れよ」とか「辞めるなよ」とか声を掛けて下さり、今でも辛くなった時にはその言葉を思い出すことで自身への励みになっています。この仕事を続けていくことで、いずれ恩返しが出来るように今後も頑張っていきたいです。

現在、私達はＪＲＡ日高育成牧場での育成馬騎乗実習をしています。馴致が済んだばかりの若馬の動きや反応は、研修所の乗馬と全く違い、最初は戸惑いましたが、ＪＲＡスタッフの方々による親身なアドバイスにも助けられ、今では若馬の俊敏な動きにも何とか体が対応できるようになった気がします。４月の育成馬展示会では、成長した育成馬の姿と共に私達の成長も披露できたらと思います。

民間牧場実習やＪＲＡ日高育成牧場実習に限らず、この研修では多くの関係者の方々にサポートして頂き、色々な経験を積むことが出来ました。また、私はＢＴＣ第２５期生のまとめ役ともいえる寮長という大役を任せられましたが、この１年を振り返ると他の研修生にしてあげられたことは少なく、むしろ皆によって支えられていたということを強く感じています。私達に馬とは何なのか、馬乗りとは何なのかを教えて下さった教官は勿論のこと、この研修で係わった全ての人

と馬に感謝しています。この感謝の気持ちを忘れず、これからホースマンとしての人生を歩んでいきたいです。

成　長

田中　孝拓

私はＢＴＣの研修生になる前は、馬に触れたことすらありませんでした。入講してからこの研修で学んだ一つ一つのこと全てが新鮮で、とても勉強になりました。入講当初、馬に乗ったことのない私は、初心者グループのＣ班として円馬場で騎乗訓練をスタートし、騎乗経験のあるＡ・Ｂ班は覆馬場で騎乗訓練をしていました。早く上達して覆馬場で騎乗している皆をビックリさせてやるために、必死に頑張りました。そして、あっという間に皆と覆馬場で騎乗するようになり、いつの間にか走路やＢＴＣの調教場全てで皆と騎乗訓練を行っていました。

ＢＴＣの調教場での騎乗訓練に慣れてきた頃、浦河競馬祭に向けての調教が始まりました。教官から指示された調教内容通りに走ることがそのころはどんなに難しかったことか・・・。出走予定馬の調教メニューから飼い葉等に至るまで、乗馬とは大幅に違い、浦河競馬祭までの取り組みから、馬について今まで以上に考えるようになり、その結果として馬を取り扱う上での大切なことを多く学ぶことが出来ました。

浦河競馬祭が終わると、牧場実習が始まり、現場でしか学ぶことの出来ない牧場の雰囲気を感じることができ、馬に対する牧場スタッフの強い思い入れも感じることが出来ました。

上級課程になってから馴致実習が始まり、入講して初めて何も知らない若馬と接する機会が訪れました。初めは全然落ち着きがない若馬に、正直私自身が不安でビビっていました。しかし、馴致によって良い躾を教える人間がどっしり構えて落ち着いていなければ、馬も落ち着きません。この馴致実習から、馬への接し方や馬の気持ちを理解すること等を学びました。

馴致実習が終了してからは、１ヶ月間の特別訓練ということで、担当馬を１人２頭任せてもらい、その馬達の調教から手入れまでの馬匹管理を全て任されました。担当馬の肢の状態等を把握した上で、今日はどの調教場でどのような調教内容をするかを自分自身で決めて調教を行いました。また、担当馬の癖をどうしたら矯正することが出来るかを考え、考えたことを騎乗で実践する。その事が良い方向に行くことも、良くない方向に行くこともありました。こうして上手く行かなかったことや、疑問に思ったことをそのままにせず、自分自身でよく考えてから実践に移すことが「強い馬を作る」ためには大事なことだと学ぶことが出来ました。

そしてこのような研修を経て、ＪＲＡ日高育成牧場での育成馬の騎乗実習を現在行なっています。育成馬はＢＴＣの乗馬とは違い、すごくやんちゃで些細な事で驚いたり、真っ直ぐ走ってくれなかったりして大変です。しかし、ＢＴＣを卒業して牧場で働くようになれば、現在騎乗させてもらっている育成馬に騎乗しなければいけないので、この実習を活かしてどのような馬でも乗りこなせるようになりたいと思います。

今思えば、ＢＴＣでの研修一つ一つ、騎乗一鞍一鞍が、私の騎乗技術と人間性を確実に成長させていました。あと少しで卒業ですが、まだまだ沢山学ぶことはあり、そして学べることは全て学んで、いつも貪欲に向上心を持ち続けて頑張っていきたいです。

特別訓練

岡　司沙

４月の入講から、早くも１０ヶ月間が経過しました。自分はこの１０ヶ月で馬のことに限らず、厩舎で作業を共にする仲間との友情や人間関係など、色々なことを学ぶことが出来て、色々な思い出を作ることが出来ました。

その数多い思い出の中でも一番印象的で、自分に大きな技術と自信を与えてくれたのが、１１月に行われた「特別訓練」でした。この特別訓練は生徒一人一人に担当馬２頭が与えられ、最終目標に向かって１ヶ月間、飼料、毎日の調教メニューを自身で考えて、調教を実施していくという、自分にとっては高度な訓練でした。

最初はどのようなメニューを組めば良いのか殆ど分からず、教官や友達に相談しながら考えていましたが、毎日毎日担当の２頭に乗っていると、その馬の癖や気質など色々なことが分かりはじめ、特別訓練が始まって２週目には、自分でその馬に合った調教メニューや厩舎での馬のケアを考えられるようになりました。３週目に入って、最終目標「ＢＴＣ坂路にて１ハロン１８秒、２騎併走で折り合いをつけて走る」に近づくための調教を始めたが、坂路や屋内直線ではハミがかかってしまい、なかなか速いタイムでの調教に進みませんでした。使用馬具を変更したり、もっと繊細な手綱操作ができるように、毎日シミュレーターで自分の騎乗姿勢を見直したりと、自分なりに色々考えて調教を行いました。しかし、自分の実力が足りないせいか、２頭とも自分の手の内に入れる事が出来ませんでした。

思い通りの調教が行えないまま、とうとう特別訓練最終日が来てしまいました。教官から「一頭一頭がどこまで最終目標に近づけたか審査する」と言われ、自分が担当している２頭は、まだ仕上がっていませんでしたが、現段階で出来る一番良い騎乗を見せるという気持ちで、２頭とも審査に挑みました。１頭目は坂路のコーナーを過ぎた瞬間、併走相手と共にハミがかかってしまいましたが、２頭目は併走騎乗も設定タイムも指示通り行うことができ、自分としては満足した騎乗を行うことが出来ました。

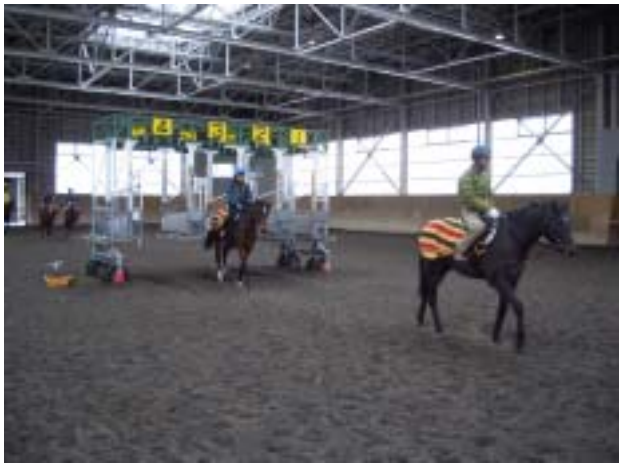
１頭は残念な結果で終わってしまった特別訓練でしたが、この訓練で得る事のできた色々な経験を、今行っているＪＲＡ日高育成牧場での育成馬騎乗実習や通常の騎乗訓練に活かし、常に「より良い馬へと育てていきたいという気持ち」を忘れないようにしたいと思います。そして残り３ヶ月の研修期間で、もっと騎乗技術に磨きを掛け、４月から働く牧場では即戦力となる人材として認められるように頑張っていきたいと思います。

屋内直線馬場

屋内トラック馬場

民間育成牧場と共用のＢＴＣ調教場全ての施設で騎乗しました。

十分余裕を持って騎乗できるようになりました。



少し緊張した育成馬騎乗実習

コミュニケーションは大切